議会運営委員会視察

11月18日、群馬県中之条町の議会を訪れ、議会運営について視察しました。

群馬県の北西部に位置するこの町は、北部一帯は上信越高原国立公園に指定され、四万温泉という県を代表する温泉地がある人口1万8千人の町です。

22人の議員で構成される議会は、当町と同様に本会議中心で運営されておりましたが、特色は3月議会については、一般質問を日程にとらず、通告なしで登壇し質疑を行っているとのことです。

町民とともに「調和と自立の町づくり」を目指している町でありました。

県町村議長会研修会に参加して

11月1日(金)神奈川県立相模湖交流センターに於いて、町村議員約四〇〇名が出席しての研修会が開催されました。

「政治はこれでよいのか」と題されテレビ等で、おなじみの毎日新聞特別顧問の「岩見隆」氏の講演を受講いたしました。

今の国会に対する問題として、経済問題、国会議員の口利き問題、北朝鮮問題の三区問題をあげられました。

小泉内閣の大きな取り組みとして、郵便民営化、道路公団民営化問題があげられ民間人を加えての改革に向けて審議が進められているがいろいろ問題があり多難である。

また、外交問題にもふれられ、外交の日本の弱さを指摘された。

この非常に厳しい政局をのりこえていく為には英知をしぼり、従来型の首相とことなった小泉首相の手腕にかかっている。山積する大きな諸問題をかかえながら、取り組んでいる中でいつでも解散カードを持ちながら進んでいることは国会議員もそれに感じとっているところであり、それだけに非常に厳しい政局であり、先が見えない経済状況でもある。

最近の国会等の動きを見ると若い人が政治に参加し政権をとるようになってきている。政治も世の中の流れも大きく変化していくと思うと語られ講演を終了した。

受講者は終始耳を傾むけ真剣に聞き入っていた。(小川　記)

下郡議長会全議員研修会講演に思う

10月22日、足柄下郡議長会、町村会合同研修会が湯本富士屋ホテルにおいて開催されました。

当日は、下郡三町の議員・職員が多数出席。

「電子自治体について」をテーマに、二人の講演を受講しました。

最初に、日本総合研究所、奥原英彦氏の「電子自治体の動向」について、政府の推進するIT戦略、自治体の進捗状況、また費用やセキュリティなどの問題点を話されました。

身近な例として、電子自治体の先進都市である横須賀市の電子入札を、導入することにより公共工事費が、40億円以上節約できた事例を紹介されました。

次に、浜松市役所・内藤文子氏の「浜松市の市民の視点から見た電子自治体へのアプローチ」と言うテーマで、電子自治を推進する上で、自治体と市民のかかわりを中心に、実例を交えて、話しをされました。

何よりも重要なことは、市民の利便性を第一に考え、パソコンだけでなく、電話や窓口など色々な方法を、利用できるマルチアクセス、また手早く簡単に、一ヶ所で用事を済ますワンストップ等の手法を説明されました。

電子自治体を推進する目的は何か。

IT化、近代化をすることが、目的ではなく、行政の効率化を図るとともに、町民の簡単・便利を常に念頭において、推進する必要があるのではないでしょうか。(天野　記)

(表紙写真) 研修会風景

編集後記

気がつくと、かけ足で去る秋の背があったもう少し紅葉を眺めていたかったのに。

先日久しぶりに着物をきた。女性なら誰しも思う事だが、スリーサイズが変化してもあの一本のヒモで、どうにでも出来る便利さ。柄も年齢も越えて半永久的に身につけられる。着物は、日本装飾文化のノーベル賞ものだと思う。

ただ、暑い、着にくい、すぐ洗えない点を除けば。

日本の精神文化はどうかというと、これは今、貧しくなりつつあるような気がする。思いあい、譲りあい、助けあい生き抜いた先人達の強く、しかも柔軟性に富んだ心意気は何処に?と自省もする。かきわけて前へ一歩から、踏みしめて横へ一歩の路線でいきたい。

来年も、議会だよりを宜しく御愛読ください。(勝呂　記)

議会だよりは こね
編集委員会
委員長　勝呂昌子
副委員長　小川鶴雄
委　員　天野　渉